



雄物川上流

国土交通省 東北地方整備局

湯沢河川国道事務所 十文字出張所

〒019-0522

横手市十文字町字西上38-3

NO.342 発行日 令和6年12月4日

TEL : 0182-42-0109

FAX : 0182-42-2881

大久保堰 右岸・左岸の魚道清掃しました！！

※魚道とは・・・魚類が堰などの人工の構造物を乗り越えて通過することができるように設けられた「魚の通り道」のことです。

右岸側



作業後



生い茂った草木を伐採し、
魚道に溜まった泥などを掻き出して
水路を綺麗にすることで
魚も快適に泳げます。

左岸側

10月11日～21日までの期間で作業を行いました。



作業後



重機を使って作業しますが、重機では
出来ない所は、人の手で細かな作業を
行いました。

これからも、生物の住みよい環境整備を行って参ります。

水質（油）事故に注意を！！



寒さも増し、暖房が欠かせない時期となりました。

灯油を使う機会も増えて、それに伴う油漏れ事故が発生する傾向にあります。

今一度、ホームタンクや配管等の損傷がないかチェックして、日頃の管理に気を付けましょう。

万が一、油漏れ事故を起こした、発見した場合は、お近くの警察署・消防署・市町村、または十文字出張所へご連絡をお願いします。

雄物川の洪水にまつわる伝記

～おつるの権現～

雄物川の洪水の歴史は江戸時代から記録があり、周辺に住む人たちは、洪水の被害に大変悩まされてきました。そのため洪水にまつわる民話が多く残されており、抜粋して紹介したいと思います！

旧雄物川町に伝わる民話です。

かつて道地の村は毎年のように「洪水」に苦しめられていた。村中総出で「堤防」を築き直しても、次の「洪水」でまた破られ、田畑はもちろん人馬も家ごと流されることが多かった。

ある年、この村に母と娘の巡礼が立ち寄った。

おりしも新しい「堤防」を築こうとしている時で、村人たちは密かに図り、巡礼の娘「おつる」を水神の生贄にするため、「堤防」の下に生き埋めにしてしまった。それから「堤防」は破られなくなったが娘を埋めたあたりから毎夜、木枯らしのようなすすり泣きの声が聞こえるようになった。

村人たちは深く悔いて、娘の霊を供養する祠を建て「おつる権現」と名付けた。今もなお、その祠は川岸に残っている。

（雄物川叢書 風土紀より）

